

大正十二年九月九日

工学博士

阿部美樹志

浅野総一郎

内務大臣子爵時後藤新平殿

陳狀書

震災ト鉄筋コンクリート建築物

今回ノ地震ハ東京ヲハ安政大地震ニ次ク揺震テ有ツテ而モ全市ノ生命トモ称スベキ日本橋、京橋、深川、本所、浅草、神田ノ各区ハ深サ百尺ニ達スル猛火ノ海ト化シ燃焼スベキ一塵タモ残サスニ焼キ尽クセタ事実カラ見テ今回ノ震災ハ世界未曾有ノ出来事デアラン今後吾々ハ如何ニシテ生命財産ヲ保護シ又大東京ヲ如何ニシテ一日モ速カニ旧ニ復セシメントスベキカ、一日モ忽諾ニ付スベカラヤン重大

問題ナルガ今後ノ東京市及近縣各都市再建設ニ際シ爲政者ノ特ニ留意決行セネハナラヌ且最大ノ要件ハ従来ノ程度ノ強震ニ遇フテモ絶對ニ倒壊セヌ家屋ノ建設ヲ強行スルニアル斯クスレバ結局地震ニ遇フテモ火災ノ原因ヲ作ンコトナク主因副因共ニ消エ吾人ノ生命及財産ハ絶對ニ安全ナリト斷言シ得ンデアラン。

然ラバ此倒壊セヌ家トハ何物カ、鉄筋コンクリート造及耐火法ヲ施シタ鉄骨造デアラン東京市内ニ於テ今回ノ震災ヲ免レタル实例ヲ舉ケレバ火災ノ無カラフ区域内ヲハ東京駅、海上、丸ノ内、其他ノ各ビルディング、日本興業、工業俱樂部、大川田中、三菱、其他銀行會社等多數又火災区域内ヲ其家屋ノ骨格ヲ安全ニ現存セルモノハ村井川

殊^〇ニ爆彈投下ノ場合ニ

備フル上ヨリ考フルモ此際

ハ一大英断ヲ用フベキ

秋ニアル

崎住友、日米信託、第一相互、大倉組、政友會、東洋拓殖、東京日
々新聞、報知新聞、銀座及歌舞技座其他ヲ主トシ小ナル建築
ヲ其ナクレバ其例甚カ多シ、之等ハ殆ンド全部鉄筋コンクリート
造テアルコトハ特ニ牢記スヘキ實証アリ、若シ全市家屋ノ半分
ニテモ此種ノ建築法ヲ採用シテ居タナラハ今回ノ如キ慘害ハ見
ルニ至ラナカッタノアル、

尤モ今度ノ地震ヲ無慘ニモ壊滅シテ多数ノ人命ヲ失フタ
鉄筋コンクリート建築モ有ル即ケ外人ノ設計ニ成レル日本電
氣、内外ビルディング、星製藥、日本トラスコン倉庫、東京電
氣（在川崎）各會社及工場等アル、然シ之レハ決シテ鉄筋
コンクリート其物ノ罪デナク設計上耐震構造ヲ成サス又柱
ト梁トガ調節ヲ缺キ一震動ニテ梁ニハ膨張亀裂ヲ其

両端下縁ニ生シ爲メニ抗剪強ヲ失ヒ床ノ墜落ヲ見ルノ可能
性ヲ生シ又梁ト柱トニ著シキ剛率ノ差ヲ興ヘ建物ヲ一個ノ結
構体ト見タ時組成親材ハ不釣合ナ爲メ耐震力ヲ著シク
減殺シタリ又ハ施工上ノ缺陷ニ基クモノデアル、

今回ノ地震ニ際シ最も著シイ耐震性ヲ著揮シタモノハ先ヅ
東京駅ト万世橋駅トニ亘レル有線高架鐵道ニ用ヒタ鉄筋コ
ンクリート、アーチ橋ヲアロウ全長五千尺一區間ニモ三百尺ニ亘
ル連續アーチニハ何處ニモ毛筋程ノ亀裂ヲモ認メナイ、（九
月四日）又東京日々新聞本社建築ノ如キハ震災ハ勿論猛
火ニ包マレナカラ火災ヲ免レ安全ニ内外事情報導ノ任務
ヲ全フシ得タコトハ特筆ノ値ガアル、

此等ノ現存建造物ノ地震後ノ結果ヲ考察シ且ツ鉄筋コン

クリートノ特徴タル耐火性耐久性年月ト共ニ累年追加ノ増強
性并ニ其ノ材料ナル砂利砂ハ勿論セメントカ豊富ナル國産品
タルト施エノ容易ヲアツテ建築費ノ低廉(普通家屋を坪
数百五拾円以内)ナルト見テ東京及近縣都市ノ再建設
ニハ家屋トシテ鉄筋コンクリートヲ第一ニ採定採用スルコトカ國家
及國民ノ最大幸福ヲ得ン道ヲアルト云ハネハナラヌ、
因ニ東京市政正街路面ハ主トシテ木礮道ヲ有ツタガ為メ
火災ノ蔓延ヲ一層容易ナラシメ導火線トナツタ傾キカアル
頗ル高價ナル道路費ヲ支拂フテ導火路ヲ作ルト云フコトハ
果シテ賢明ナル策ニアルカ疑問ナルアロウ、

現今世界ノ趨勢ハ經濟上耐久トシテコンクリート及鉄筋コンクリート道
路ヲ著レキ勢ヲ政米各國ニ行ハレテ居ル道路ヲ不燃質物ト

スルコトハ又為政者ノ最モ留意ヲ要スルトアル、況シテ其ノ
建設費ハ約半價ニアルコトニ鑑ミタラハ我國刻下ノ窮乏
ニテ財政ニ顧ミ且ツ人命財産ノ安全ト共ニ街行ヲ要スル處
ニアル、

前記ノ如ク吾人ノ生命財産ヲ助クン上ニ於テ建築道路運
河ノ改修ハ一日モ國家トシテ躊躇スルカラズン問題ナレバ國家ハ
明治ハ年國家ノカラヒテ銀座通ノ面目ノ一新シタル如ク各
當局ノ嚴命ヲ以テ大東京ノ復活ヲ期セナケルハナラヌ殊ニ鉄
筋コンクリート建築法ハ從來ノ日本家屋ト異リ木材ヤ石ヲ集
ムル必要ナク鉄トセメントヲミアラバ造シ得ルモノニシテ鉄ハ政府
ノカラヒテアメリカヨリ安價ニ多量ヲ輸入スレバセメントハ民
間各會社ニ於テ銳意努力カスレバ一年間ニ五六十万樽ハ

供給力ヲ發揮シ得ルノデア、殊ニ今日ハ不景氣ニシテ大
阪・神戸・京都方面ニ多数ノ建築請負業者ト云夫人
足加餘ヲ居ン之等ヲ大東京建設ニ從事セシムル材料
ノ供給ト相俟ツ新橋、目鏡橋間ニ四五階ノ本式建築
ヲ僅カニ十年以内ヲ以テ完成セシメ得ル見込充分デア
又土地ノ整理即チ都市計劃ノ執行モ今日ヲ措イテ
他日ニ絶対ニ求メ得ナイ事實鑑ミテ國家ハ一日モ
速カニ着手セラレンコトヲ只管希望スル次第デア、